

6/27

発行：日本リスク研究学会(The Society for Risk Analysis: Japan-Section)

会長：横山 栄二

事務局：〒305 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学社会工学系 池田研究室

TEL. 0298(53)5380 FAX. 0298(55)3849

発行責任者・池田 三郎

編集・中村 豊

目次

1. 年次総会・春期講演シンポジウム案内
2. 第5回研究発表会の日程と企画テーマについて
3. 第8回理事会報告
4. 第4回研究発表会報告
5. 学会誌第4号原稿(論文・短信)募集
6. S R A 年次学会の参加報告
7. その他

1. 年次総会・春期講演シンポジウムの案内

1992年度の年次総会(第3期初年度)と第5回の春季講演シンポジウム(化学物質リスク管理の実際)を下記の要領で開催することになりましたのでご案内いたします。

趣旨：これまでの年会や講演会でリスク評価と管理の科学的、基礎的な側面は比較的数量多く発表されているので、今回は、多少実際的な面に踏み込んで企画しました。特別講演ではわが国におけるリスク管理の歴史と思想を、またパネルディスカッションでは、リスク評価の実際てきな過程を整理するという意図を含んでいます。(企画担当 内山巖雄、横山栄二)

メインテーマ：「化学物質のリスク管理の実際」

1. 日時 : 1992年6月27日(土)
 - 講演会 13:00~16:20
 - 総会 16:30~17:00
2. 場所 : 東京大学山上会館(東京都文京区本郷 東京大学構内)
 - (1) 特別講演 「わが国の化学物質のリスク管理の歴史と思想」
奥 重治 氏(中央労働災害防止協会)
 - (2) パネルディスカッション
 - a. 生活環境中の化学物質濃度と安全性：藤田 昌彦(国立公衆衛生院)
 - b. 生物学的モニタリングによるリスク管理：(未定)
 - c. 動物実験からヒトへの外挿：(未定)
 - d. 環境汚染物質のリスク管理—制度と方法：(未定)、
3. 懇親会： 山上会館1階 17:15~ 会費3000円程度(予定)

2. 第5回研究発表会（1992年会）の日程と企画テーマについて

1992年度の研究発表会（年会）は関西で下記の日程で行うことになりました。基調テーマは「都市のリスク」です。企画・運営委員会（企画責任：木下富雄（京都大学））では基調テーマに関連したセッションの企画を募集します。企画セッションのテーマ、趣旨、発表予定者をA4用紙1枚にまとめて事務局までお寄せ下さい。（締切 3月末日）

日時：1992年11月27日（金）－28日（土）

場所：京都（京都国際会議場：京都市宝が池の予定）

3. 第8回理事会議事録（案）

日時：1991年11月29日

場所：（社）土木学会図書館（2階5号室）

出席者：横山栄二、木下富雄、天野博正、池田三郎、酒井泰弘、田中勝、
中村正久、広瀬弘忠、盛岡通 各理事（委任状7通）

(1) 前回議事録の確認：確認された。

(2) 新会員の承認

資料2にもとづいて池田理事（事務局）から説明があり、正会員17名の入会が承認された。

(3) 1992年度総会と春期講演・討論会

横山会長より以下のように平制4年度春期講演・討論会（企画担当 内山 巖雄 理事）の企画案が示された。

テーマ：化学物質のリスク管理の実際

日時：1992年6月27日（土） 13:00 - 17:00

場所：東京大学山上会館

講演会：(1) 特別講演「わが国の化学物質のリスク管理の歴史と思想」

(2) パネルディスカッション

講演者はまだ決っていないとのことである。また、春期講演の内容を学会誌に掲載する方向で検討していただくが、内容の決定はもう少し時間が欲しいとのことであった。

天野理事より、テープ起こしは費用がかかるため、特別講演とパネル・ディスカッションは学会誌に載せる条件で論文を事前に提出していただくほうがよいという提案があった。

(4) 第5回研究発表会

木下副会長より以下のような平成4年度の第5回研究発表会の企画案が示された。

日時：1992年11月27日（金）、28日（土）

場所：京都国際会議場

基調テーマ：「都市のリスク」

メインテーマに係わるセッションとして集合リスク、不確定なリスクの処理、ヒューマン・エラーのコントロール、健康のリスク、リスク状況下の意思決定、社会的合意形成、リスク認知のハイパス、発癌リスク、商品リスクなどが候補として出された。

関西の役員・会員を中心に企画を練って頂くことになった。

(5) 会計中間報告

事務局より平成3年度の11月22日現在の会計の中間報告がなされた。

賛助会員の会費の増額について各理事に意見を聞き、次回の総会までに決定することになった。この件に関連して天野理事より(大口の)特別賛助会員も考えてはどうかという提案があった。

(7) その他

a)盛岡理事よりリスク関連の用語集を本にして出版する計画についてさる出版社に打診したところ前向きの返事があったとの報告がなされた。このために理事会を中心に企画編集委員会を組織し、次回の理事会までにキーワード(大項目を30個、中項目を200 - 300個程度)や、執筆予定者リスト等を企画することが了承された。

b)学会誌の編集作業はこれまで事務局が行ってきたが、今後は編集作業を効率化し、編集ミスをなくすためにも編集委員会を事務局から分離したほうがよいという提案が事務局よりなされ、具体的な方法を事務局に一任された。

4. 第4回研究発表会(1991年会)報告

日本リスク研究学会主催の第4回研究発表会は既報のとおり1991年11月29日(金)-30日(土)の両日、土木学会図書館講堂(東京都新宿区四谷)で開催されました。両日の参加登録者は約100名で、熱心な講演と活発な議論が行なわれました。特別講演として、田中勝氏(国立公衆衛生院廃棄物工学室長)から廃棄物問題へのリスク概念導入について現在のわが国の現状と課題についての講演があり、この分野の専門家4氏を含めて内容の濃い意パネル討論が行われました。

各研究発表は2つの一般セッションと一つ企画セッションで総計14件の研究発表がありました。研究発表会での講演は約95頁の講演論文集として発行されています。講演論文集はリスク研究の1次資料として非常に有益な文献となるものです。

講演論文集はまだ余部がありますので必要な方は事務局まで申し込み下さい。

(一部 2,000円+送料210円)以下は講演論文集の内容です。

第4回日本リスク研究学会研究発表会プログラム

11月29日(金)

10:00 - 12:00 一般セッションI (リスク評価)

司会 草間朋子(東京大学)

- (1) 大気中有機化学物質の健康リスク評価・・・三浦 卓(国立環境研究所)
田辺 潔(国立公衆衛生院)
相馬悠子(国立環境研究所)・・・1
- (2) 道路環境影響評価と沿道生活者のリスク・・・伊瀬洋昭(東京都立7イノ7総合研究所)・・・6
- (3) 複数の肝がんプロモーターによるリスクの評価の試み
関沢 純、五十嵐貴子、
神沼二真(国立衛生試験所)・・・7
- (4) ディーゼル排出ガスと肺癌の risk-characterization に関する試み
和田篤也(大阪府環境保健部)
森永謙二(大阪府成人病センター)
五十嵐日出夫(北海道大学)
小竹久平(鳥取県衛生環境部)
小柳秀明(環境庁)・・・12
- (5) HyperCard を用いたリスク評価支援データベースの構築
富田裕之、相崎裕恒、甲斐倫明、
草間朋子(東京大学)・・・18

13:00 - 14:00 特別講演 司会 池田三郎 (筑波大学)

『廃棄物処理におけるリスク管理』 田中 勝 (国立公衆衛生院) 23

14:00 - 17:00 シンポジウム及び討論会

『リスクアセスメントを考慮した最終処分計画』

総合司会 池田三郎、田中 勝

発表者・パネラー

- 中村正久 (滋賀県琵琶湖研究所) : 廃棄物処分場のリスク管理と社会的意志決定 29
- 盛岡 通 (大阪大学) : 環境リスク診断 37
- 森澤眞輔 (京都大学) : 廃棄物処理システムのリスク同定と評価の試み 38
- 古市 徹 (国立公衆衛生院) : 環境リスクを配慮した処分場立地計画論 44

17:10 - 懇親会

11月30日(土)

10:00 - 12:00 一般セッション I I (リスク管理とコミュニケーション)

司会 内山巖雄 (国立公衆衛生院)

- (1) 日本人公衆のリスク認識の実体 吉永信治、松原純子 (東京大学) 52
- (2) 日常生活のリスクとレジャーリスク 岩崎民子 (放射線医学研究所) 57
- (3) 主観的リスク評価の規定因: 集団における私的リスク評価の問題
山口 勤 (東京大学) 63
- (4) 化学物質規制におけるコストベネフィット分析法の応用について (II)
— ケーススタディ ガソリン中のベンゼン —
内山巖雄、横山栄二 (国立公衆衛生院) . . . 65
- (5) 応用リスク学 (Applied Riskology) における物質的リスク管理と財務的リスク管理の相関
佐成重範 ((財) J T E C) 71

13:00 - 15:30 企画セッション (モラル・リスクとモラル・ハザードをめぐる問題)

司会 酒井泰弘 (筑波大学)

- (1) モラル・リスクとモラル・ハザード: レビュー
酒井泰弘 (筑波大学) 73
- (2) モラル・ハザードと保険構造 高尾 厚 (神戸大学) 75
- (3) 保険と社会—「掛け捨て」嫌いの保険思想— 田村祐一郎 (姫路独協大学) 78
- (4) 生命保険のリスク・経済分析—生命保険の劣等財性について—
三辺誠夫 (広島大学) 83
- (5) エイズウイルス発見をめぐる諸問題 小野克彦 (愛知県がんセンター研究所) . . . 90

5. 学会誌第4号原稿募集

当学会では今年10月に日本リスク研究学会誌第4号の発刊を予定しております。第3回研究発表会での講演を中心に編集する方針ですが、会員の皆様の研究成果やご意見を積極的に掲載する予定です。特に、「リスク」問題に関して会員の皆様が日頃お考えのご意見を「研究短信」としてまとめていただき、できるだけ数多く掲載する予定ですので下記の要領でご寄稿下さい。

- (1) 原稿締切 : 1992年 3月31日 (研究論文)
4月30日 (寄稿論文、研究短信)
- (2) 原稿枚数 : 研究論文 8頁以内、寄稿論文 1~6頁、研究短信 1~2頁
なお、規定ページ数におさまった場合は掲載料は無料としますが、超過した場合は、超過したページ数に応じて印刷等に係わる費用を負担していただくことになります。
- (3) 論文別刷 : 100部以上50部単位で、有料にて申し受けいたします。
- (4) 原稿サイズ : 1ページにつき40行22字詰 (図表等すべて含む)
- (5) 採否の決定 : 寄稿論文及び短信は、編集委員会が採否を決定いたします。研究論文は複数(2名程度)の査読者による審査結果にもとずいて、編集委員会が採否を決定いたします。
- (6) 投稿要領 : 日本リスク研究学会誌に記載の投稿規程を熟読の上、投稿して下さい。
- (7) 執筆要領 : 日本リスク研究学会誌に記載の原稿作成要領を熟読の上、原稿を作成して下さい。また、第4号の各論文、短信の体裁も参考にして下さい。

6. SRA年次学会・理事会への参加報告

(池田三郎: 筑波大学)

SRAの1991年の年次大会が12月8日から4日間の日程で東部の Baltimore (Maryland 州) で行なわれました。昨年からSRAの理事 (Councilor: 1991-1993) をつとめていますので、学会の理事会にも参加する必要があり出かけました。例年通り約50近いセッションからなり、5-6の分科会が同時進行するという大きな学会で、参加したいセッションや講演者を探すのが大変でした。昼食時には、ゲスト・スピーカーの講演を聞きながら会食し、隣合わせた会員と各々自己紹介しながら、交流を深めるという、平均的な日本人には "Yoko-meshi" となるいささか努力がいる日程でした。

今回のスピーカーは Mr. Henry Habicht, EPA次官と Dr. Robert Frosch, General Motors Research Lab., Vice President の両名で、特に、後者はエネルギー関連産業界での指導的な研究者であるので気候温暖化のリスクに対してどのような態度を持っているのか聞けたのは収穫でした (Global Risks: Rationalism, perception and politics)。

学会では特に、"Super Session" と題して、

- 1) Implication of the new clean air act
 - 2) EPA risk communication round table
 - 3) Policy implications of global changes
 - 4) Initiatives in development of ecological risk assessment guidance
- の4つが各々約2日間連続でセッションを持ったのが目をひきました。私は3), 4)の分科会に集中して参加しました。

なお、日本からの参加者は東海岸であったせい、横山会長と私の2名というさびしい数であったのが残念でした。

次回のSRA学会は西海岸のSan Diegoで、Dec. 6-9, 1992の日程でおこなわれることが決まりました。理事会では、西海岸であるので、日本問題とか、日米共通に関連したテーマで特別のセッションを持ってはどうかという提案がありました。我々の年会のすぐあとなのですが、積極的に参加の方向で企画したいと思っておりますので、会員の皆様のご支援をお願いします。

7. その他

学会誌第3巻訂正

- (1) 頁116-122、研究論文 "TBT化合物のリスクと便益の分析-大阪湾の事例研究-"、著者 趙顯書、盛岡通、末石富太郎。
に頁番号の付け間違い等がありました。
訂正した論文を同封いたしますので学会誌第3巻の当該論文を差し替えて下さい。
- (2) 頁66-76、寄稿論文 "HIV(エイズウイルス)感染防止ポスターの評価に関する日米比較研究"、著者 広瀬弘忠
頁74の第6節「結論」部分に「謝辞」にある4行の文章の重複がありました。
そこで、6. 結論(頁74右下14行から17行)では以下の文章を削除します。
「日米における調査を担当したし実施した東京女子大学の石井亜希子、江野祐子、原田容子の3氏、およびデータの整理に尽力した高梨靖恵氏に謝意を表す。」

なお、著者あてには訂正済みの別刷りを届けてあります。ご必要の方は事務局までご請求下さい。ご迷惑をおかけした著者に謹んでお詫びいたします。

会員状況及び新会員(1991年10月-1992年1月)

	継続	新規入会	退会	合計
正会員	256	8	0	264
準会員	9	1	0	10
賛助会員	16	0	0	16

〒100
東京都千代田区
内幸町2-1-4 (日比谷中日ビル)
ダウ・ケミカル日本(株)製造本部
高木 登夫 様

〒144
東京都大田区
蒲田5-38-3 (朝日ビル7F)
千代田ディムス・アンド・ムーア(株)
牧 明彦 様

〒305
つくば市立原1
建設省建築研究所 第五研究部
北後 明彦 様

〒807
北九州市八幡西区
医 生 ヶ 丘 1-1
産業医科大学 産業生態科学研究所
田中 勇武 様

〒700
岡山市鹿田町2-5-1
岡山大学医学部 公衆衛生学教室
目黒 忠道 様

〒700
岡山市鹿田町2-5-1
岡山大学医学部 公衆衛生学教室
武田 和久 様

〒540
大阪市中央区
大手前2丁目
大阪府環境保健部 環境局大気課
和田 篤也 様

〒464
名古屋市千種区
鹿子殿1-1
愛知県がんセンター研究所 ウィルス部
小野 克彦 様

〒700
岡山市鹿田町2-5-1
岡山大学医学部 公衆衛生学専攻
山本 秀樹 様